

●年間指導計画

課題・テーマ	福島の未来を生きる ～再生可能エネルギーから福島を考える～							
作成推進校	福島市立森合小学校							
対象児童・生徒	第6学年 (122名)							
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総合的な学習の時間				<p>「再生可能エネルギーの現状」 ・福島県環境創造センター コミュタン見学</p>	<p>「再生可能エネルギーのメリット・デメリット」 ・調べ学習</p> <p>「再生可能エネルギーを利用した発電の仕組み」 ・南相馬ソーラー・アグリパーク見学 ・猪苗代第二発電所見学 ・ユーラス滝根小白井ウインドファーム見学 ※ 児童が興味をもった発電の仕組みを選択して見学した。</p>	<p>講義「再生可能エネルギーを学ぶとは？」 講師 共生システム理工学類教授 総合教育研究センター教授 岡田努先生</p> <p>「2040年の福島におけるエネルギーのベストミックスを考えよう。～友達との交流を通して～」 ・放射線教育推進校授業研究会</p>		<p>ポスターセッション ・今までの学習の発表</p>

●実践成果

総合的な学習の時間

子どもたちは「地球温暖化が進み、自分たちの生活に大きな影響を与えている」ことは情報を通して知っているが、自分のこととしてとらえていなかった。しかし、再生可能エネルギーの学習を通して自分のこととして考える機会を得られたことは、将来の日本や福島を担う子どもたちにとって大きな意義があった。

まず、「再生可能エネルギーとは何か」「再生可能エネルギーにはどのようなものがあるか」などを知ることは、子どもたちにとって再生可能エネルギーが身近なものとなり、理解が深まった。次に、実際に水力発電所・太陽光発電所・風力発電所に行き、それらがどのような場所に造られ、どのような仕組みになっているかなどを見たことにより、各再生可能エネルギーの特質に気付くことができ、2040年の電源構成を考える際の土台となった。また、「電気を地産地消する」「季節によってメインとする発電を変える」「その土地土地の特長を生かして発電する」という発想にもつながっていった。

「再生可能エネルギーが全ての問題を解決する万能薬である」という考えに無条件で賛成するのではなく、現状を鑑み火力発電や原子力発電はベース電源として必要なのではないかという現実的な考えもあった。これは、子どもたちが自分のこととして考えエネルギー問題に真剣に取り組んできた結果ではないかと考える。

今回の学習を通して、子どもたちには次の5つの力が高まったと考える。

- ① 課題を発見する力・・・見学学習後のまとめを通して生じた疑問を、インターネットや本等で調べ、次の見学学習に臨んだ。課題解決的な学習を継続して続けていくことにより、新たな疑問を見つけることができるようになってきた。
- ② 情報収集力・・・自分の課題を解決するのに必要な資料を効果的に見つけることができるようになった。
- ③ まとめる力・・・適切な見出しを付けたり、内容に合った図や表を効果的に使ったりして、分かりやすくまとめることができるようになってきた。
- ④ 聞く力・・・これまで獲得してきた知識をつながけながら講師の先生の話の話を聞いたり、友達の発表を聞いたりできるようになってきた。また、具体的にイメージしながら話を聞くことにより、質問の内容も深まってきた。
- ⑤ 発表力・・・自分が考えた2040年の電源構成を伝えるポスターセッションでは、資料を有効に活用し、5年生にも分かるように発表することができた。このポスターセッションに至るまで、小グループでの意見交流を何度も繰り返してきた。このような一連の取り組みが発表力の向上につながったと考える。